

## 鶴岡市中心市街地活性化基本計画（案）へのご意見と それに対する市の考え方

### 意見一覧（6件）

意見概要	市の考え
<p>「鶴岡市都市再興基本計画」の中にも、「持続可能でコンパクトなまちづくりを推進するための指針」という文言で、コンパクトシティへの取り組みは継続されたと認識していたが、今回発表の第二期計画にそれらの言葉が見当たらない。</p>	<p>本計画は、「持続可能でコンパクトなまちづくり」を推進するために、平成29年4月策定の「都市再興基本計画」（都市計画マスタープラン及び立地適正化計画）において、厳格なる都市機能誘導区域と居住誘導区域の設定を行い、このたびの中心市街地活性化計画の区域と都市機能誘導区域の中心拠点を同一区域とし連携を図っております。中心市街地活性化基本計画の基本方針として「住み、働き、活動する場としての中心市街地再生」を掲げ、コンパクトシティ実現のための具体的施策を予定してまいりますので、表現の違いはございますが、前回計画に引き続き「コンパクトシティ」の取り組みを継続してまいります。</p>
<p>現在、茅原地区の大規模土地区画事業を進めており、商業施設の建設などが計画されているが、それとコンパクトなまちづくりの概念とは矛盾しないのだろうか？</p>	<p>本市では、平成16年5月に、区域区分（いわゆる線引き）を実施しており、市街化を促進する市街化区域と、市街化を抑制する市街化調整区域に区分しております。茅原地区につきましては、昭和47年に未線引き都市計画の第一種低層住居地域に指定した用途地域内であり、都市の成熟とともに計画的に市街化を図っていく地区としておりました。昨今の本市の人口動向においては、若年世代を中心に近隣市町村への転居傾向もあり、人口減少の歯止め策として、地権者のご理解のもと組合施行型で区画整理を実施しているものです。平成29年4月策定の立地適正化計画においても都市機能誘導区域・居住誘導区域に位置付け、幹線交通の要衝に近接し「福</p>
<p>いたずらに郊外の農地転用を進めるのではなく、もう一度、コンパクトシティの原点である、歩いて暮らせるまちづくりを進めたい。</p>	<p>（この意見に対する市の考えは、上記の回答に含まれており、ここでは省略します。）</p>

	<p>祉、医療、商業が共存する出会いと交流のまちづくり」を目指し、市街地北側の新たな生活拠点として計画的なまちづくりが進められております。</p> <p>また、本市では市街化調整区域を殆どの平野部の農地に適用し、白地設定を行わないことで、厳格な農地保全を実施しております。このように、都市計画制度に基づいた市街地開発と農地保全の明確な土地利用コントロールを行うことで、「歩いて暮らせるまちづくり」を具現化するコンパクトシティの形成を図るものです。</p> <p>加えて、「歩いて暮らせるまちづくり」の基本の一つに「まちなか居住」の推進があり、多様な世代層が中心部の医療、福祉、商業等の生活利便性を享受し、地域コミュニティの中で相互扶助しながら少子高齢化に対応した暮らしを実現することが重要であるとし、本計画の重点事業に、駅前地区、銀座地区を含めた「まちなか居住」の推進に取り組んでいく内容としております。</p>
<p>首都圏ですらマンションは過剰状態なのに、鶴岡の駅前に高層マンションを建てようとする。駅前は駅前でも、公共交通が整備されていない駅前に居住して、歩いて暮らせる街など実現されるのか？</p>	<p>地域活性化においては、そこに暮らす居住人口が非常に重要であることから、まちなか居住を推進するため、多様な居住ニーズに応える拠点整備を検討しているところです。駅前地区は、その高度利用地区の特性を活かしながら、店舗、にぎわい施設と併合した様々な住宅形態を検討してまいります。駅前地区はSモールが高速・路線バスの発着点としてのバスハブ機能を有し、JR 鶴岡駅とあわせ本市の交通結節点にあり、商業施設も複数近接するなど、正に「歩いて暮らせるまちづくり」を実現できる地域特性を有しております。この特性を生かし転勤族、若年層や高齢者層に利便性の高い居住地域として選択いただけるものと考えております。</p>

<p>商店街などといわず、近隣に、ちょっとした買い物が出来る古くからの店があればいい。あえて名前を付ければ、「コミュニティ商店街」。組織化されていない、小規模商店街の支援が必要だ。着るものや大型商材は通販で買える時代だから、食料品中心でいい。</p>	<p>ご意見のとおり地域の小規模小売店舗には住民の生活を支えていただいております、これまで本市ではその所在するエリア、組織化の有無、商材を問わず、関係機関と連携しながら支援してまいりました。人口減少、消費者ニーズの多様化、IT化など、小売業を取り巻く状況が大きく変化しておりますが、これからは引き続き支援してまいります。</p>
<p>鶴岡旧市だけでなく、合併前の町村であっても、昔の役場界隈にちょっとした店があれば、それでも歩いて暮らせる街にはなる。</p>	<p>その上で、商店街についても、まちの顔であり、まちの賑わいを創出する上で重要な役割を担っていただいていることから、その活性化に向けた取組を支援する必要があると考えます。</p>